

# 東北 トップインタビュ vol.14

## top interview

株式会社北洲

代表取締役社長 村上 ひろみ 氏



◇聞き手

帝国データバンク  
仙台支店長 小川 孝司



## 健康寿命を延ばす住宅を浸透させたい

東日本大震災以降、復興需要を目的にハウスメーカーが全国から東北に進出。被災地を中心に競合が激しくなっている住宅業界であるが、ここ数年ゼロエネルギー住宅や健康に配慮した住宅(健康住宅)が注目を浴びてきている。そこで、今回のトップインタビューは、長年ゼロエネルギー住宅や健康住宅に取り組んでいる株式会社北洲の代表取締役社長である村上ひろみさんにお話を伺った。

震災後の復興需要を経て、住宅業界の現状認識をお聞きします

震災後続いていた住宅建設に関連した復興需要も、収束しつつある地域と造成待ちの地域とで二極化しています。そうした状況下で、住宅業界はすさまじく動いています。COP21において、我が国は温室効果ガスの排出を2030年度に2013年比で26%減を掲げており、国を挙げてゼロエネルギー住宅を推進しています。ゼロエネルギー住宅とは、外皮の高断熱化および効率的な省エネ設備を備え、再生可能エネルギーにより年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスとなる住宅のことです。経済産業省は2020年までに標準的な新築住宅の50%を、2030年までに新築住宅の平均で、それぞれゼロエネルギー住宅の実現を目指しています。

もうひとつの大きな動きが、全国で約800万戸

とも言われる“空き家”への対策です。その再利用、空き家のリノベーションと不動産流通が大きな課題となっています。

御社は、長年ゼロエネルギー住宅に取り組んでいますね

当社の歴史は、岩手県北上市で1958年に建材販売業からスタートしました。寒さと雪のために不自由を強いられてきたこの地で、「北国こそ豊かな住まい文化をつくろう!」との創業者の片方厚夫の決意が原点にあります。1977年にツーバイフォー住宅で住宅事業に参入し、1985年にはアルミサッシ全盛の時代に、熱伝導率1/1000の樹脂製ペアガラスサッシを北海道以外では初めて標準仕様としました。樹脂サッシは断熱効率が格段に良くなる画期的な住宅を実現し革命を起こしましたが、その先頭に立ってきたという自負はあります。

また、高価でもこれは良いと思うもの、住む人の健康や幸せとなるものはどんどん取り入れていこう、ということが会社のアイデンティティになっています。今でこそ業界の潮流であるゼロエネルギー住宅や健康住宅も、住宅事業に参入して以来、長年にわたり取り組んできました。

---

### 住宅と健康の関係についてお聞きます

---

家族が健康で快適な暮らしをおくるために、「室内の温度差が少ないこと」は大切な要素です。当社では「断熱・気密施工」にこだわり続け実績を積み重ねてきました。日本では、住宅性能と健康の関連性についての認識はまだ深まっていませんが、イギリスでは夜、寝室の温度を18度未満に下げてはいけないという法律まで存在しています。

ヒートショックと言われる家の中での急激な温度差がもたらす身体への悪影響、例えば血圧が大きく変動することで、失神や心筋梗塞、脳梗塞などを起こすことが知られていますが、最近では、認知症にまで影響していることが指摘されています。断熱性が高い住宅に住むことで、健康寿命が長くなるということもほとんど一般には浸透していないのが実情ではないでしょうか。現在、啓発や調査活動を推進している一般社団法人「健康・省エネ住宅を推進する国民会議」にも参画させていただいておりますので、健康と住宅環境の密接な関係を広くお伝えし、健康寿命を延ばす住宅を浸透させていきたいと思っております。

---

### それでは、御社の強みは何でしょうか

---

住宅事業と建材事業を大きな柱として事業を展開していますが、ほぼ同じ売上高で手がけている会社は日本でも僅かだと思います。創業当初より展開している建材事業では、建築資材、住設機器、直輸入フローティング床材、ドイツアルセコ社外



断熱等の販売を行っています。1977年に参入した住宅事業では、枠組壁工法（ツーバイシックス）をベースとした高性能な注文住宅の設計・施工・販売をトータルに提供しています。この二つの事業がそれぞれの独自性を持って共存し、シナジー効果を生み出しているのが特徴であり、強みだと思います。

---

### 建材事業で力を入れている商材についてお聞きます

---

外壁プレカット事業において、タブレットで短時間に現場計測ができるシステムを開発しました。外壁プレカットは、現場での粉塵・騒音・廃材問題や、職人不足の深刻化など、様々な課題に対応できる新事業として大きな注目を浴びていますが、現場精度に問題があるなど、全国をみても未だ成功例がありません。当事業は、高精度の現場計測とCAD入力との連携により、ダクトや電気配線、板金部分などの複雑な部分まで、現場で再加工の必要がないフルプレカットを実現しています。今後はこの技術を応用し、耐力面材やラミネートフロア（床材）なども、ジャストプレカットで提供していきたいと考えています。

---

### 御社の社風や人材教育についてお聞きます

---

挑戦や自主自立を重んじ、全員で毎朝掃除をし、朝礼を大切にしている社風です。また、社長と社員の距離は近いのではないのでしょうか。

多様なスキルをバックグラウンドに持つ優秀な人材が集まり、活躍できる魅力ある職場をつくりたいと思っています。そのため、外部の専門家と一緒に人事制度を作り直しているところで、採用と階層別教育には特に力をいれています。



工場での外壁プレカット



北洲オーナー様がつくる街並み



本社「北洲プラザ」

### リフォーム事業についてお聞きします

前述の通り、空き家の再利用が大きな課題となっているなかで、特に力を入れている事業です。2005年に「既存住宅検診センター」を開設し、早くから専用機器を用いて、目には見えない建物内部まで確認するインスペクション（住宅診断）を実施しています。サーモカメラを使ったサーモグラフィ診断（熱分布を色の違いで診断）も実施するなど、建物の状態を的確に把握することに力を入れ、お客様に事前にすべて見せるとの意識から、真正直な数値で示すリフォームに徹してきました。そうした実績が評価され、第一回「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2015」にて、「最優秀レジリエンス賞」を受賞しました。

そのようななかで新商品「とても暖かいリフォーム」は、こだわり続けてきた“あたたかい家づくり”で北海道での新築基準を上回る高気密・高断熱の家を提供するために誕生しました。デザイン性と耐久性、100%不燃が特徴の環境先進国ドイツでトップクラスのシェアを誇るアルセコ外張断熱システムを採用し、温度ムラのない快適な室内空間を実現します。お陰様でリフォーム事業では、宮城県企業で売上高トップ（株式会社リフォーム産業新聞社調べ）です。

### 最後に、目指す企業像をお聞きします

そうですね、日本では“住宅の寿命は約30年”と言われるほど、欧米に比べて短いことはまちがいありません。長期間のローンを組みやっとなら、ローンが完済したと思ったら、土地の価値はまだしも、住宅の価値はほぼゼロというのが一般的です。これは購入する側には、とても不安なことで、販売

するものとしては、大きな問題だと思います。北洲の住宅は資産価値が下がらないと言われるような住宅をつくらなければならないと思っています。

また、社員が自主自立でたくましく市場を切り開いていく、そして、次世代のスタンダードを切り拓く会社を目指したいですね。

家は美しくないと愛されないという信念がありますので、機能性だけではなくデザインにもこだわり続けたいと思います。

本日はありがとうございました。

### プロフィール

#### 村上 ひろみ氏（出身地 岩手県北上市）

##### 【経歴】

立教大学社会学部卒業後、松下電工（株）へ入社

1991年10月（株）北洲ハウジング 入社

2001年9月（株）北洲 取締役 就任

2003年12月 同 常務取締役 就任

2005年11月 同 代表取締役社長 就任

1児の母、

趣味「美術鑑賞、旅行」

信条「絶えず休まず」

### 会社概要

#### 株式会社北洲

（企業コード：130004863）

【所在地】宮城県黒川郡富谷町成田9-2-2

【資本金】1億円

【創業】1958年（昭和33年）3月

【設立】1968年（昭和43年）11月

【売上高】163億3800万円（2015年8月期）

【従業員数】395名（2015年12月1日現在）